

日本共産党市議会議員団 週刊 議会報告

発行
日本共産党市議団
岡野長寿
0845-22-2596
魚谷さとる
0848-22-2810

市民に希望を灯す市政運営になってない！ 一般会計・介護保険・後期高齢医療・下水道会計決算の認定に反対

10月2日〜4日まで開かれた決算特別委員会で共産党議員団の岡野・魚谷両議員は市民の声を市政に届け、改善を求めました。4会計決算の認定に反対、他10議案に賛成しました。

職員の非正規化、公務の民間委託は大問題！
住民のいのちとくらしを守る公共の再構築を！

市役所は市民に役立つ所となっているか

れていることを明らかにしました。

また同じく市営住宅の指定管理が建設会社と介護関係会社の共同体に指定管理されたことよって修繕などの公共工事が指定管理者の思いのままに発注される仕組みになっているのではないかと指摘。担当課長は「地域に配慮して発注されている」と言うものの、「契約資料は指定管理者がもっている」と言い、証拠を示すことはできませんでした。

【一般会計決算】に反対の理由
岡野議員は、「市役所が株式会社になったみたい」という市民の声を紹介しました。

新自由主義、構造改革路線の下で、民営化が推し進められ、自治体が「株式会社」化され、資本の利益を最大限あげる仕組みの一環とされている状況があります。これを公務労働を再興し、市民のくらし・福祉の守り手としての民主的自治体に作りかえなければなりません。

同議員は①市立図書館の管理は、本屋・清掃事業者・NTT情報関連業者の共同体に8年間指定管理されていることを確認後、市立図書館が公営から民営になったことで、R4年度では書籍の購入は2千万円すべてが指定管理者の本屋に独占発注さ

る窓口業務も20人で構成される民間会社パソナ（竹中平蔵氏がかつて責任者）に委託されている問題で、住民の個人情報流出するおそれがないのか質しました。

【介護保険】では16億円もの基金残高を放置していること。

【後期高齢者】では所得のほとんどない市民からも保険料を徴収していること。

【下水道会計】では物価高とコロナ禍の中で料金値上げをしたこと。独立採算性堅持より、市民のくらしを優先すべきことを指摘しました。

市立図書館の図書購入をなぜ特定の業者が独占？



岡野長寿市議は、10月7日（土）の定例宣伝で決算議会の報告を行いました。場所は因

島総合支所。

同市議は「市立図書館は市民の共有財産なのに、特定の営業者が独占的利益をあげる仕組みとなっている」と問題点を指摘しました。

また、「市営住宅も特定の業者に管理が任せられ、修繕工事などの公共工事が特定の業者の営利のためだけに独占されているのではないか。改善する必要がある」と

訴えました。

同市議はしまなみ海道特別委員会の審査状況にも触れ、来年度予算に反映できると「小児科に通う場合に交通費補助をする」「高齢者優待乗車券を橋にも使えるようにする」などの意見が出されているが、「それだけでいいはずはない。市民対象の軽減制度を求めよう」と訴えました。

市財政、地方債残高の現状と今後は

決算特別委員会で魚谷議員は、財政全般に係わって地方債残高や、地方交付税などについて質問しました。

地方債残高について、市は「減らしてきた」としていることについてこれまでの残高を尋ねました。財政課長は地方債残高が

702.3億円、決算年度中に81.3億円を返済したと答えました。

地方債(市の借金)などについて

- ★R4年度末の地方債残高 702.3億円
- ★R4年度中の返済額 81.3億円
- ★地方債残高の内、*基準財政需要額に一部でも参入される地方債残高 673.4億円
- ★合併特例債分の残高 435.0億円

*基準財政需要額とは、市行政を運営するために国が決められている必要な額。

「地方交付税」は、この額から市税などの収入を基に計算した基準財政収入額を引いた額を「地方交付税」として交付しています。

この間10億円を超すような大型事業がなかったことや、20年の返済を10年に短縮して返済してきたためです。財政課が発行している資料によれば市民一人当りの借金は、福山市が一番少なく31.8万円です。尾道市は54.2万円です。少ない方から4番目です。

しかし、今後は統合校舎の建設64億円や、市立大学の図書館建設18億円など大型事業が予定されているため、地方債残高が増えていきます。